

1. 地区別分析について

北上市では、交流センター単位に 16 の地区があり、地域づくりのための組織が位置づけられています。これらの地区ごとに人口の現状分析及び将来予測を行い、各地区の特徴を明らかにします。

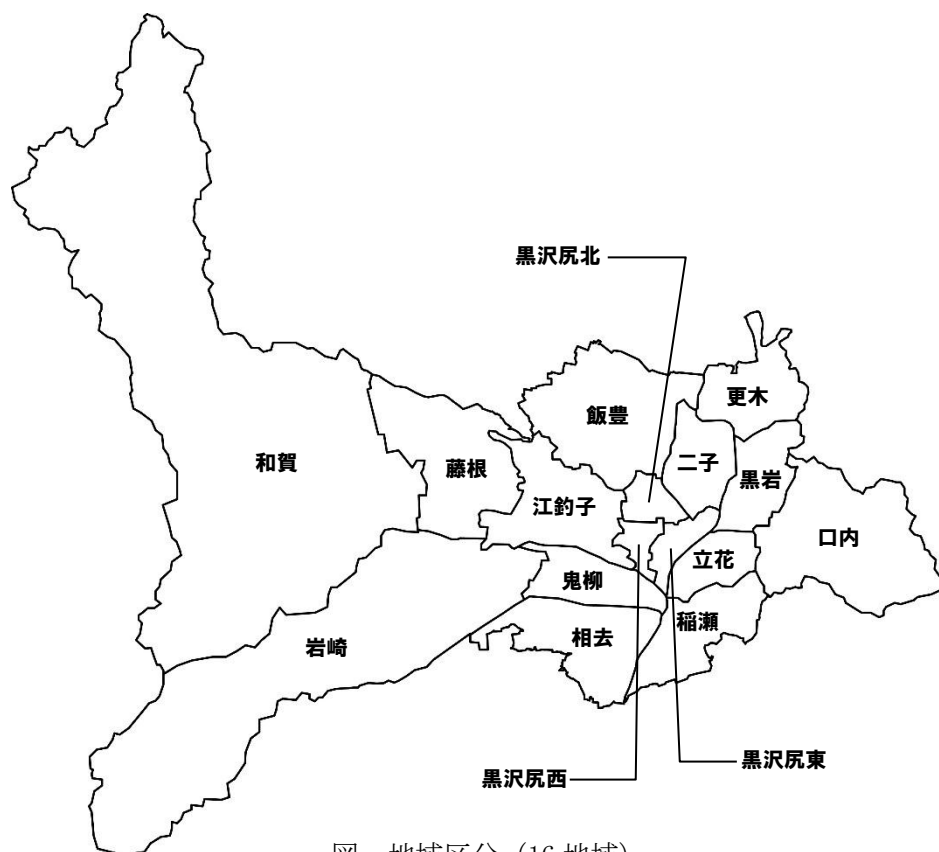
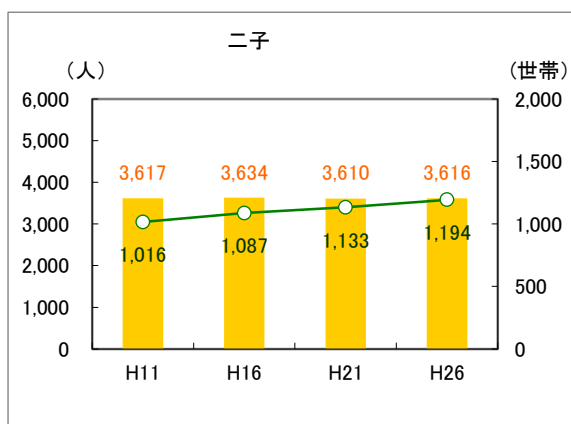
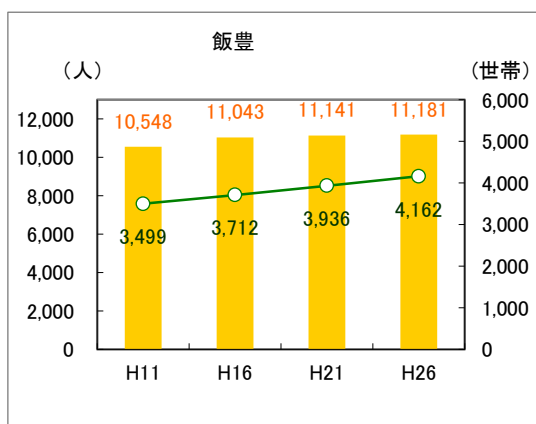
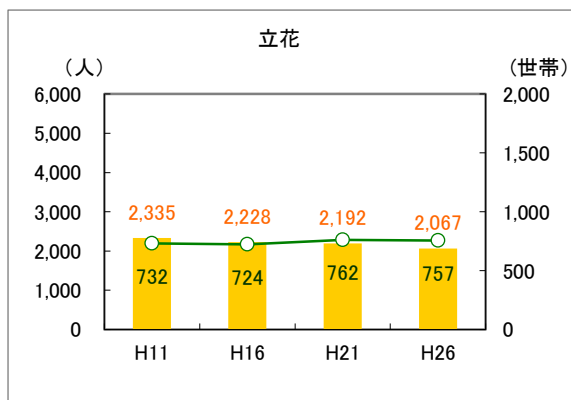
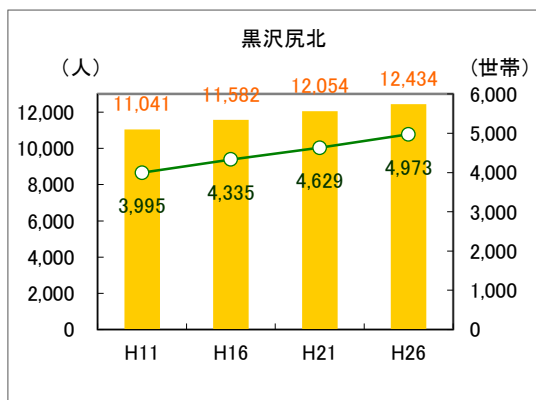
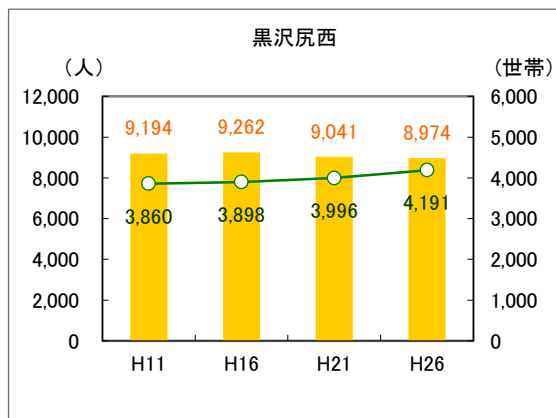
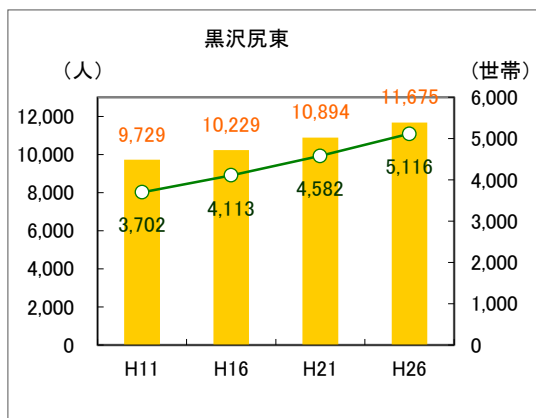


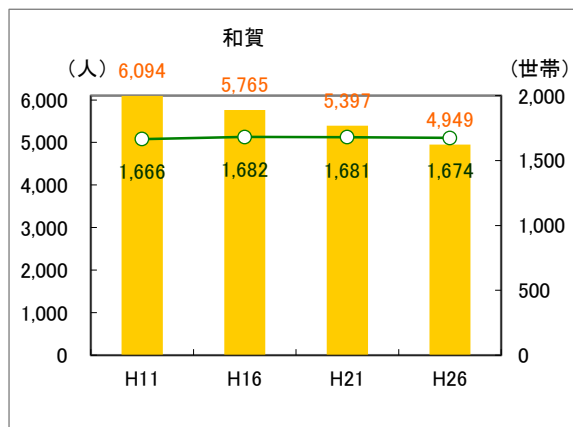
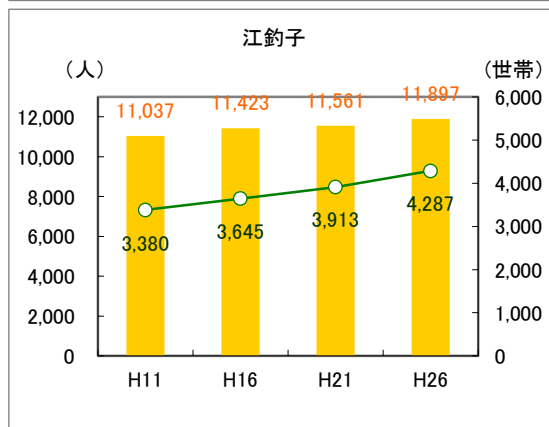
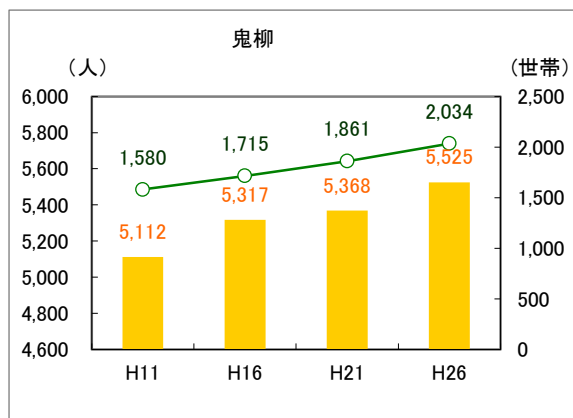
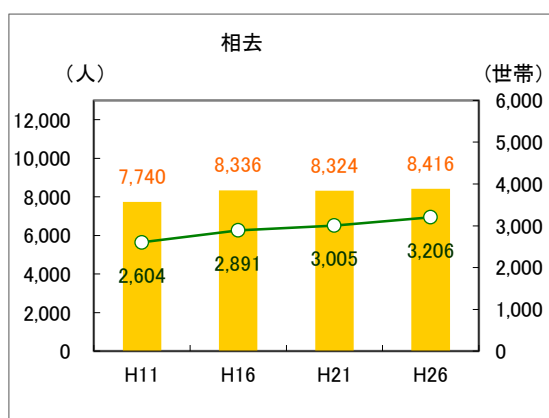
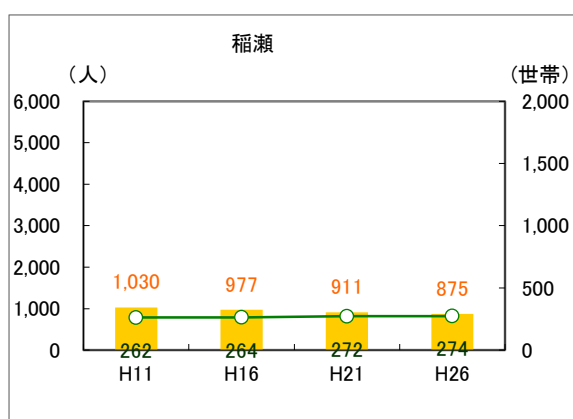
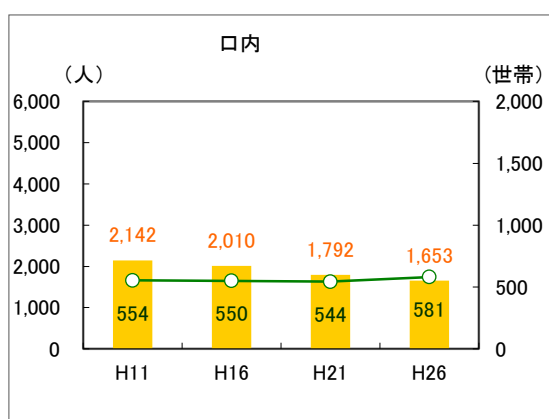
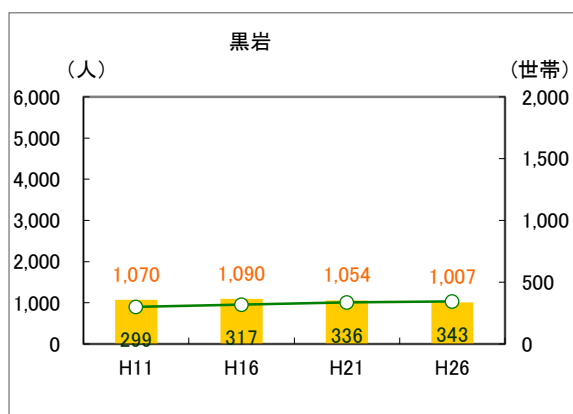
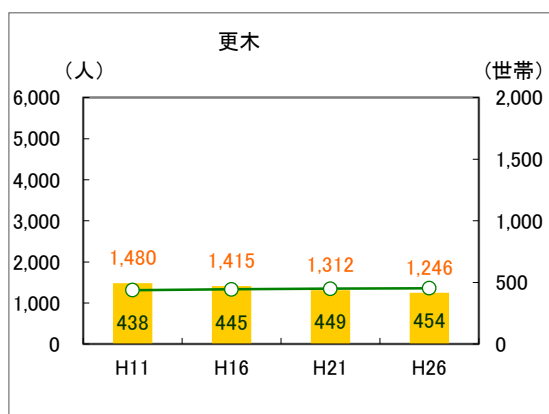
図 地域区分（16 地域）

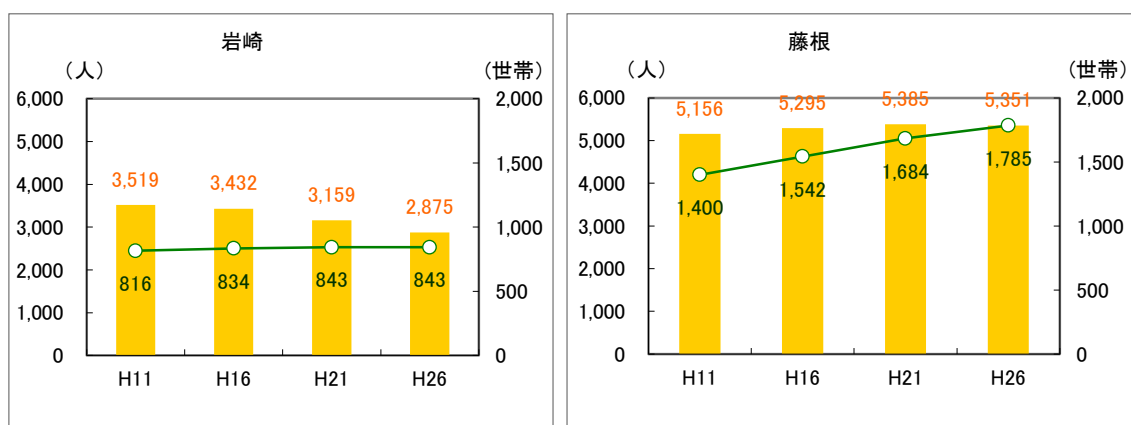
2. 地区別の人口現状分析

(1) 人口・世帯数の推移

各地区の平成11年から平成26年まで15年間の人口及び世帯数の推移は以下のとおりです。黒沢尻東、黒沢尻北、飯豊、相去、鬼柳、江釣子地区の人口は一貫して増加傾向にあります。その他の地区では横ばいまたは減少傾向にあります。







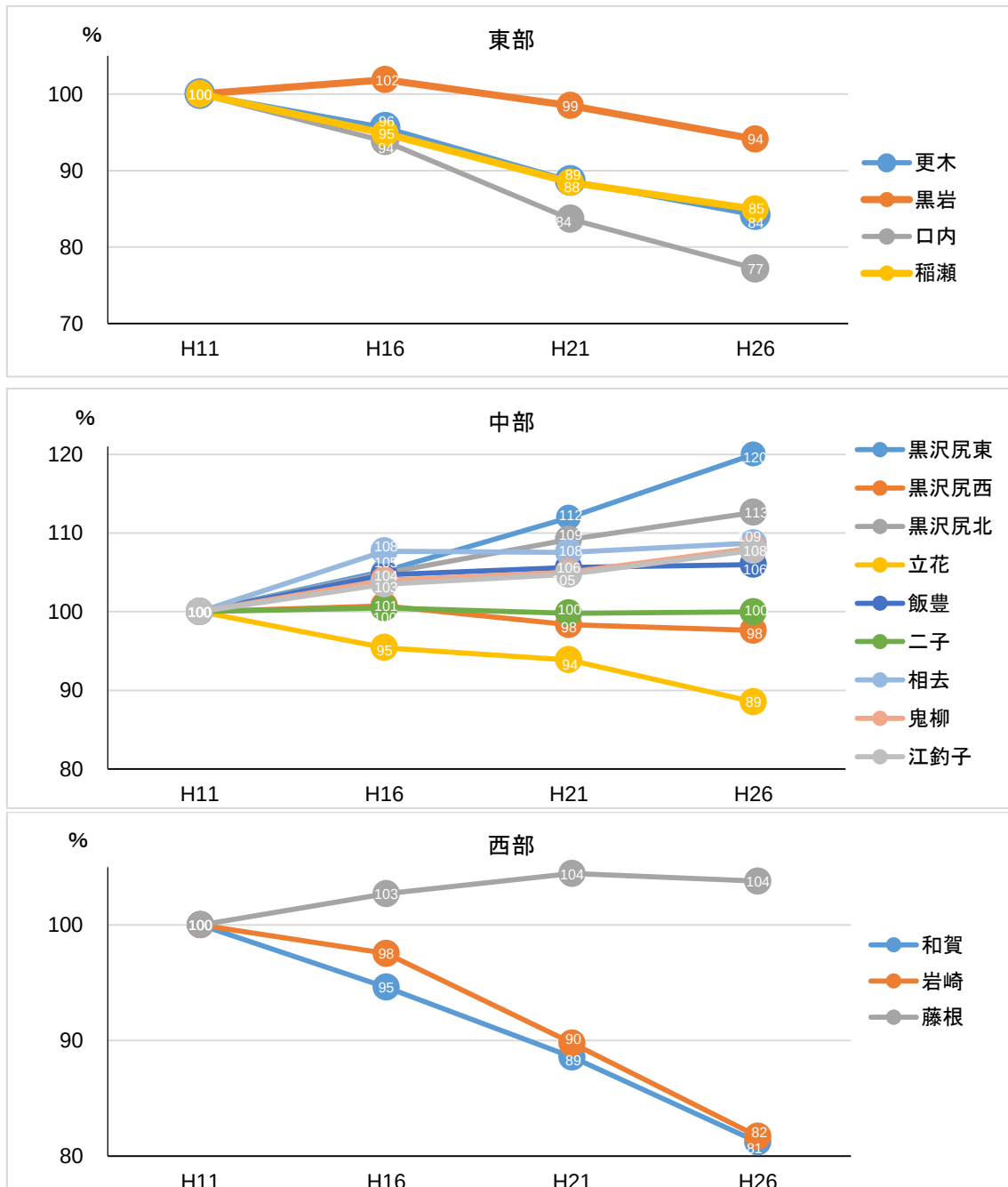
出典：住民基本台帳データ（人口統計データ、7月29日提供）

※人口・世帯数は各年9月末時点の数値を使用

(2) 人口の変化率

平成 11 年の人口を 100 とした場合の推移は以下のとおりです。

平成 11 年から平成 26 年の減少率が最も大きい口内地区は 23%減少しています。一方で、増加率が最も大きい黒沢尻東地区は 20%増加しています。

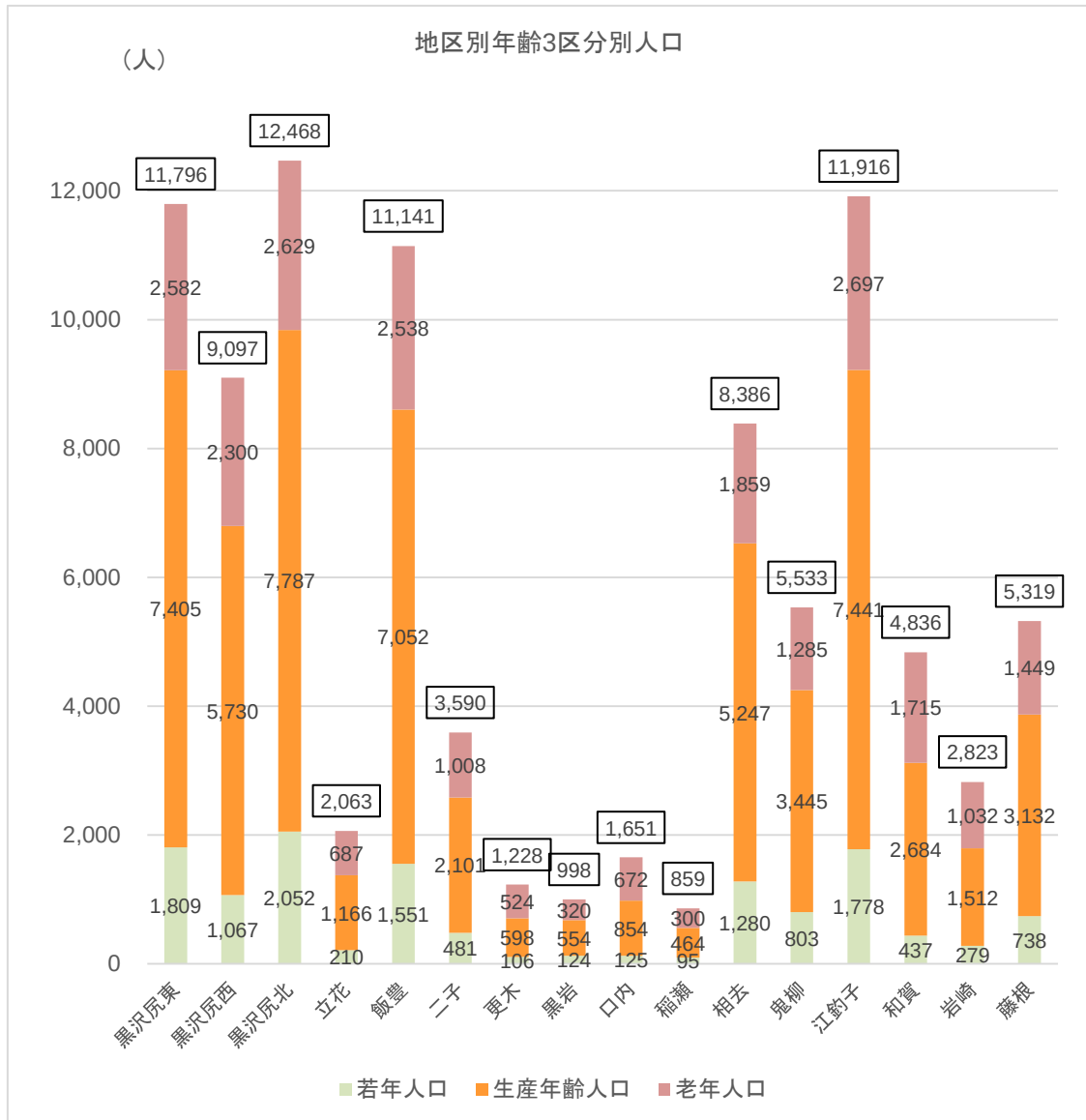


出典：住民基本台帳データ（人口統計データ、7月29日提供）

※人口は各年9月末時点の数値を使用

(3) 年齢3区分別人口

平成 27 年 9 月の地区別人口は以下のとおりです。黒沢尻北・黒沢尻東・飯豊・江釣子地区は 1 万人を超えているのに対し、稲瀬・黒岩・更木地区は 1 千人前後と地区によって大きな差が生じています。

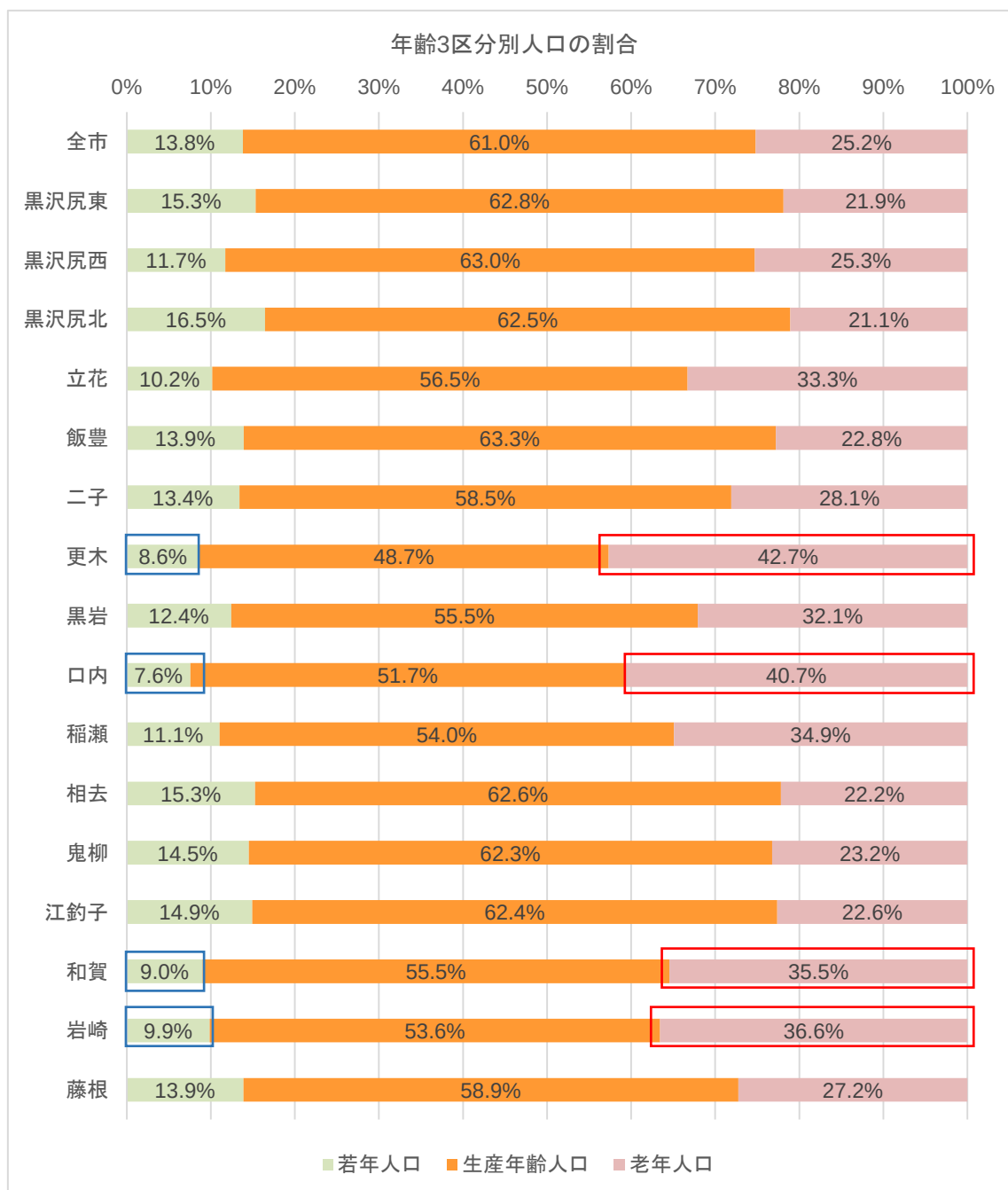


出典：住民基本台帳データ（住民基本台帳平成 27 年 9 月、10 月 8 日提供）

※人口は 9 月末時点の数値を使用

(4) 年齢3区分別人口割合及び高齢化率

平成 27 年 9 月の地区別年齢 3 区分別人口は以下のとおりです。更木・口内・和賀・岩崎地区は若年人口（15 歳未満）が 10%以下、老年人口（65 歳以上）が 35%以上（3 人に 1 人以上）となっています。

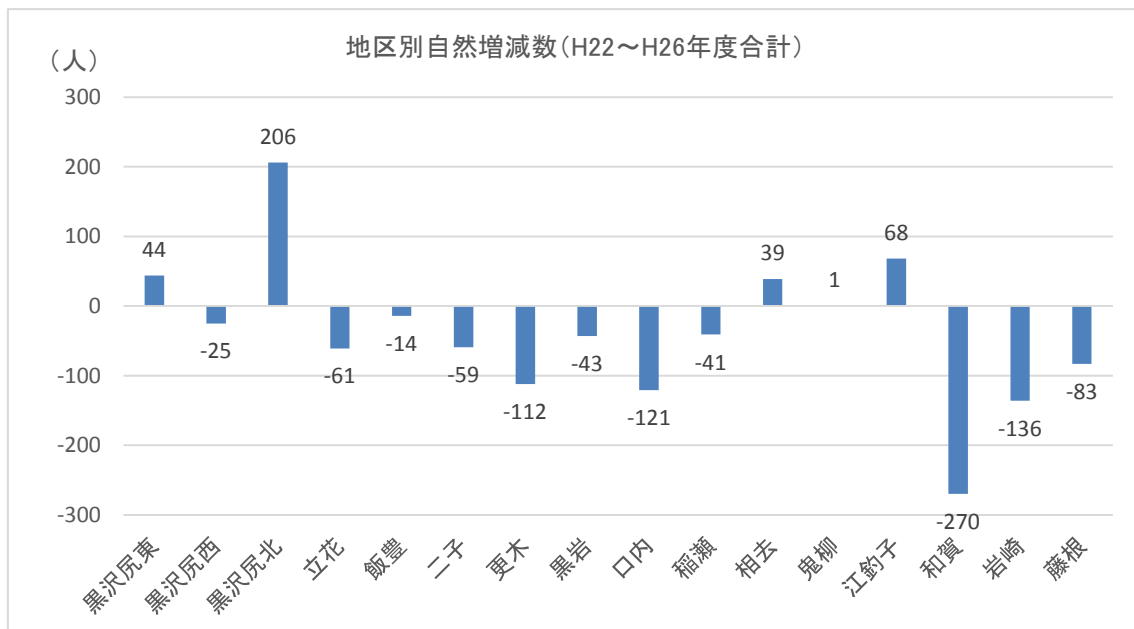
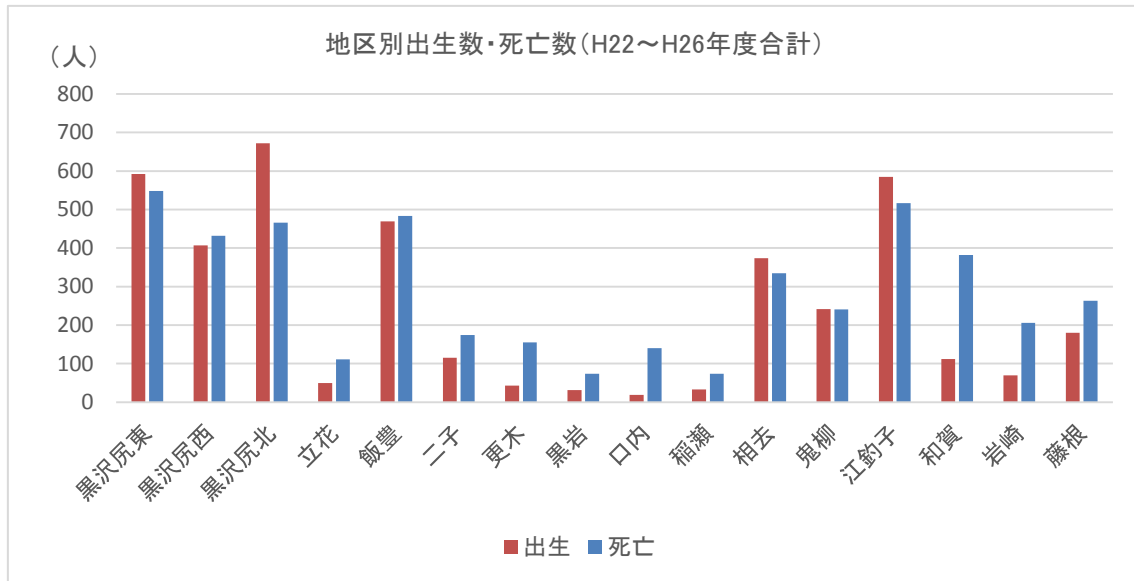


出典：住民基本台帳データ（住民基本台帳平成 27 年 9 月、10 月 8 日提供）

※人口は 9 月末時点の数値を使用

(5) 自然増減

過去5年間（平成22～26年度）の地区別の出生数及び死亡数は以下のとおりです。黒沢尻東・黒沢尻北・相去・鬼柳・江釣子地区は出生数が死亡数を上回っています。更木・口内・和賀・岩崎地区は出生数が少なく、過去5年間の自然減が100人を超えています。

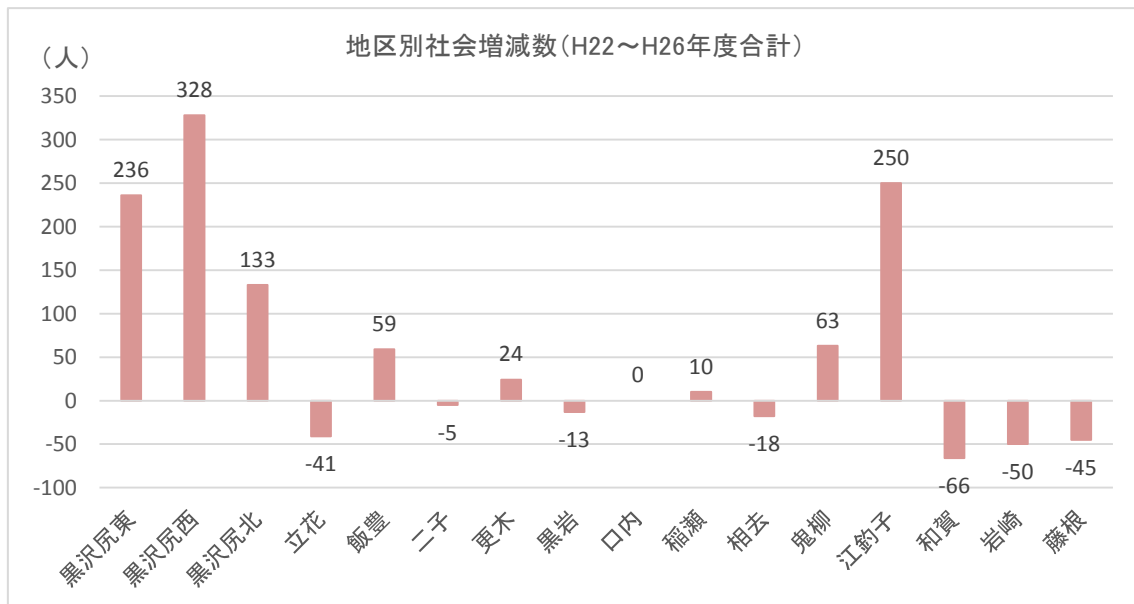
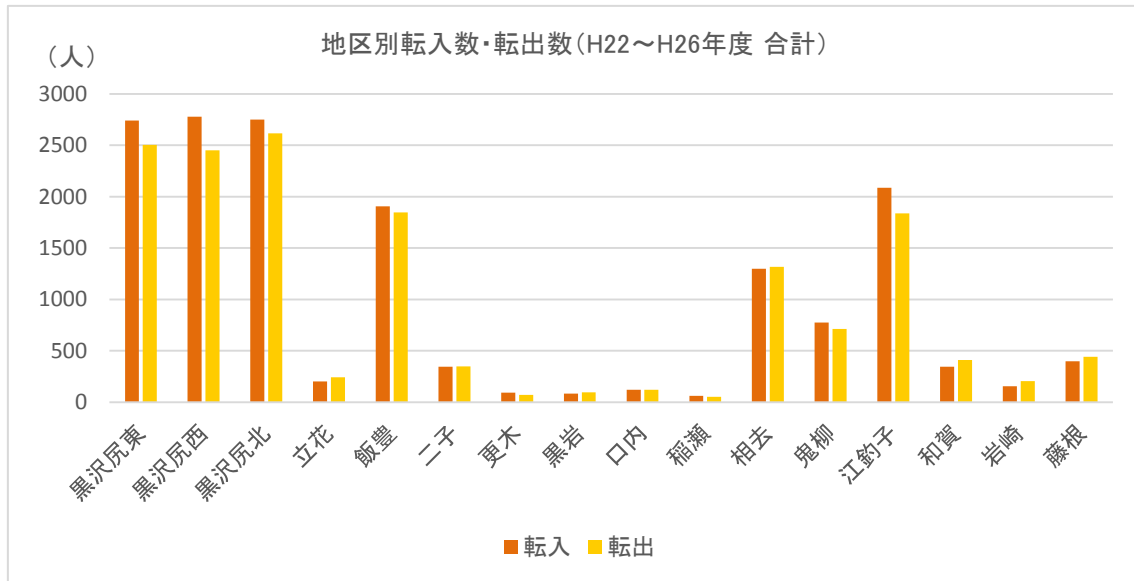


出典：住民基本台帳データ（北上転出入データ、8月11日提供）

※出生数・死亡数は各年度（4～3月計）の数値を使用

(6) 社会増減（市町村間の人口移動）

過去5年間（平成22～26年度）の地区別の社会増減は以下のとおりです。黒沢尻3地区及び江釣子地区では100人以上の転入超過となっているのに対し、立花・和賀・岩崎・藤根地区は50人前後の転出超過となっています。

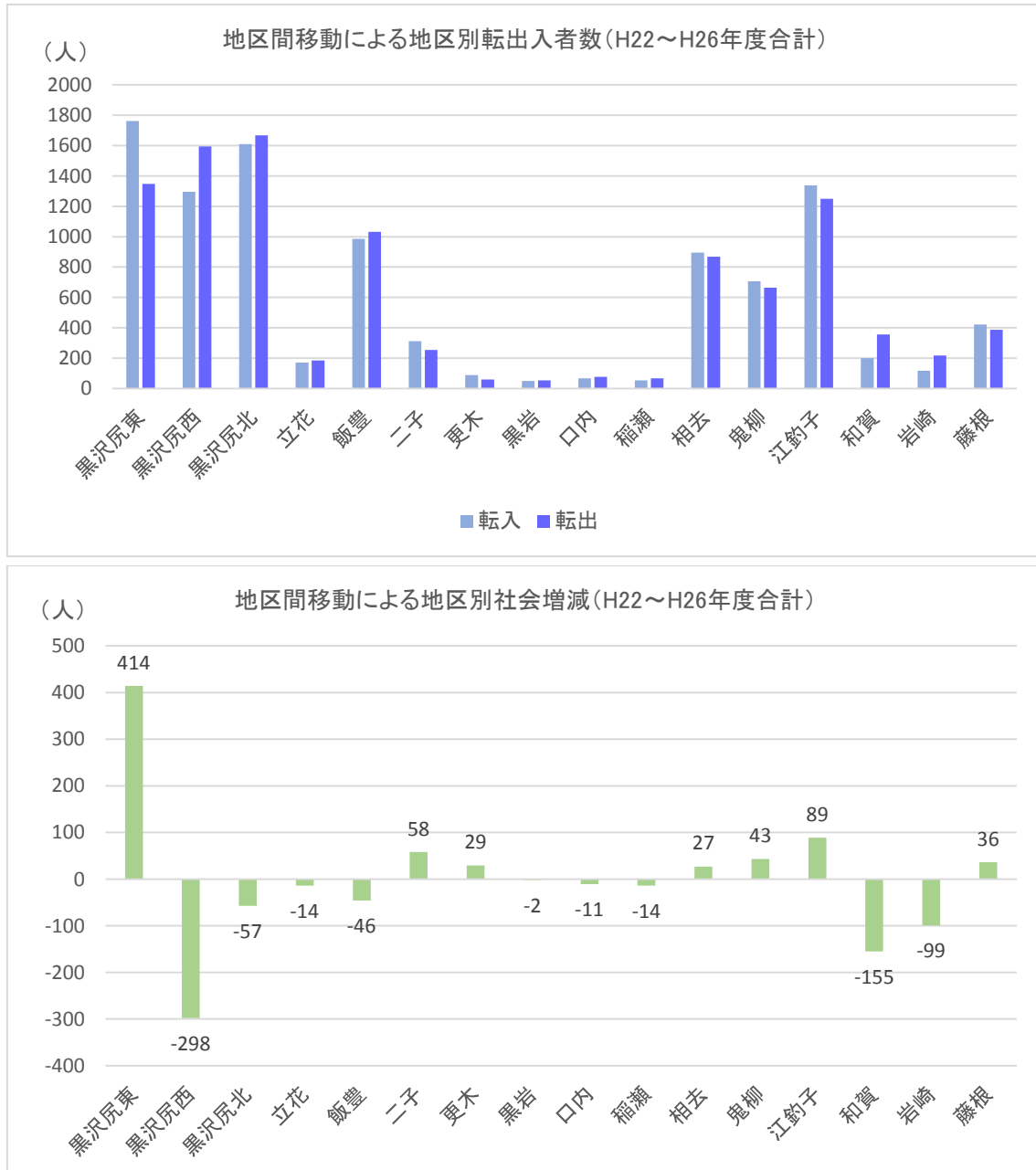


出典：住民基本台帳データ（異動者一覧、10月5日提供）

※転入数・転出数は各年度（4～3月計）の数値を使用

(7) 地区間の人口移動

過去5年間（平成22～26年度）の地区間の人口移動の状況は以下のとおりです。黒沢尻東地区で400人以上の転入超過となっているのに対し、黒沢尻西・和賀・岩崎地区の転出超過が顕著となっています。

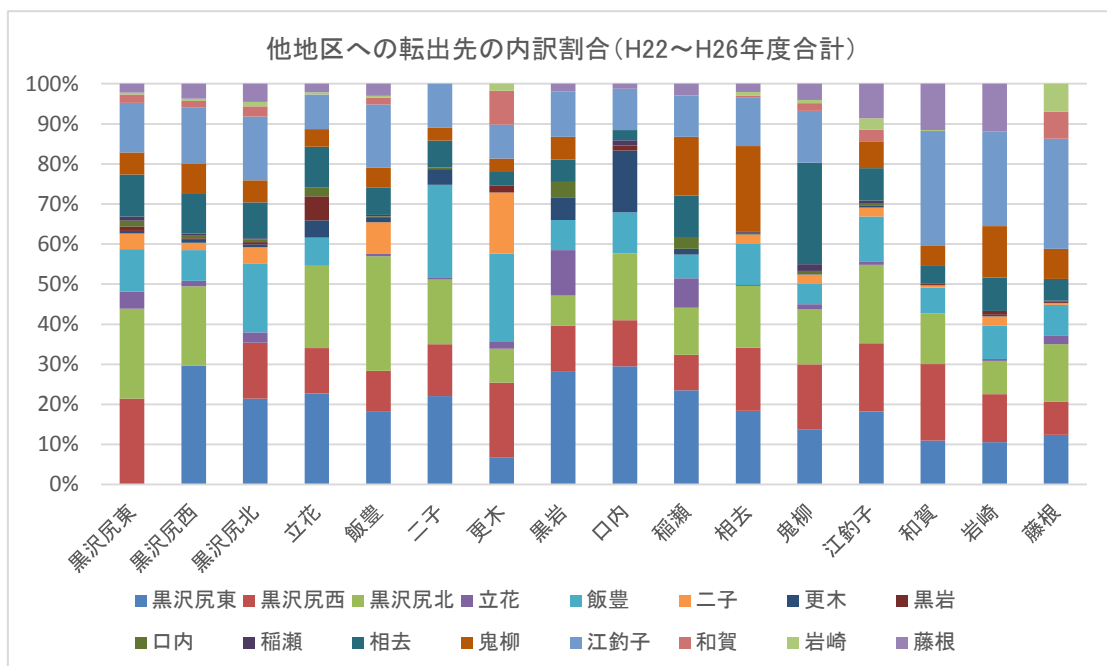
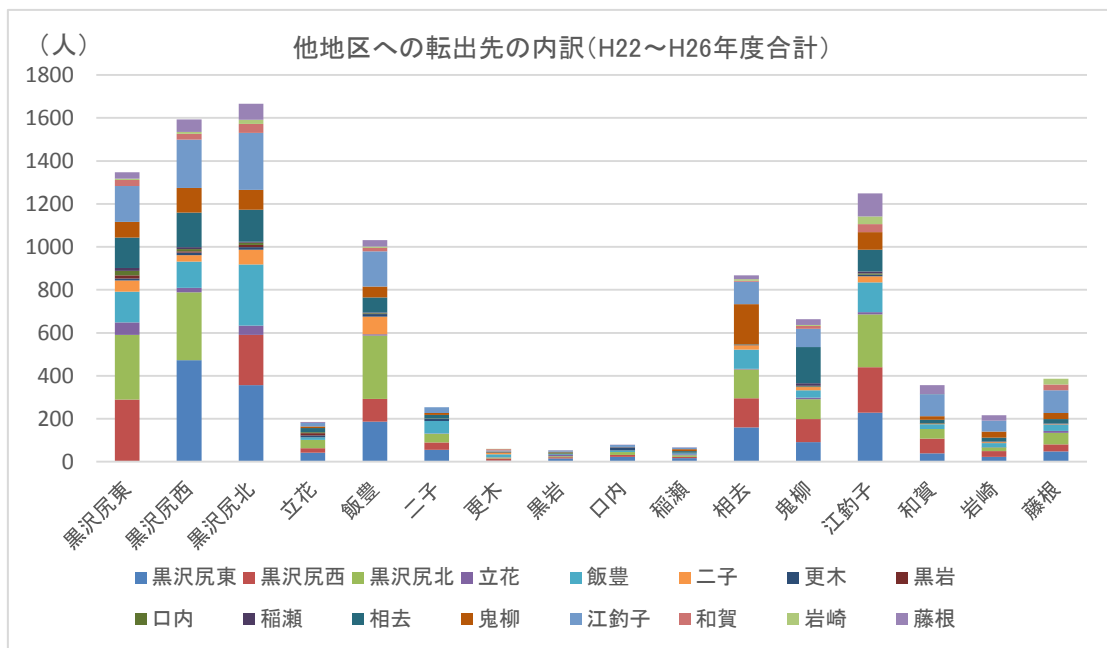


出典：住民基本台帳データ（地域間移動データ、9月28日提供）

※転入数・転出数は各年度（4～3月計）の数値を使用

①他地区への転出先の内訳

他地区への転出先の内訳は以下のとおりです。転出超過の大きい黒沢尻西地区は、黒沢尻東（30%）・黒沢尻北（20%）地区への移動、和賀地区は江釣子（29%）・黒沢尻西（19%）地区への移動、岩崎地区は江釣子（24%）地区・鬼柳（13%）地区への移動の割合が高くなっています。

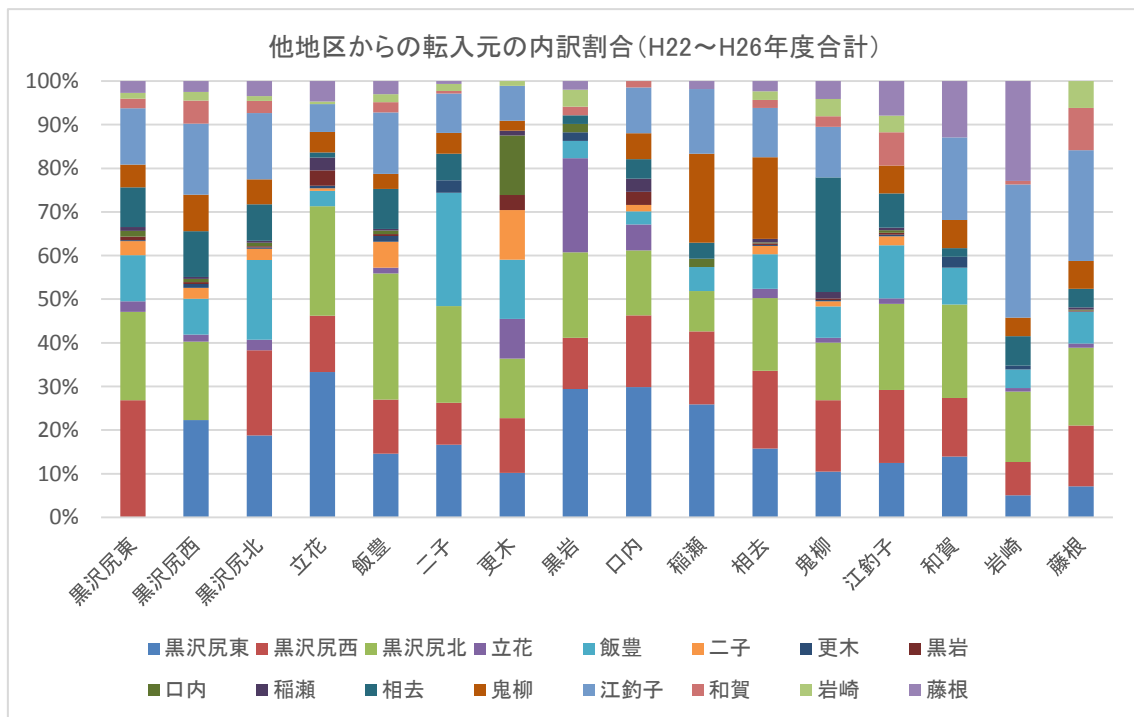
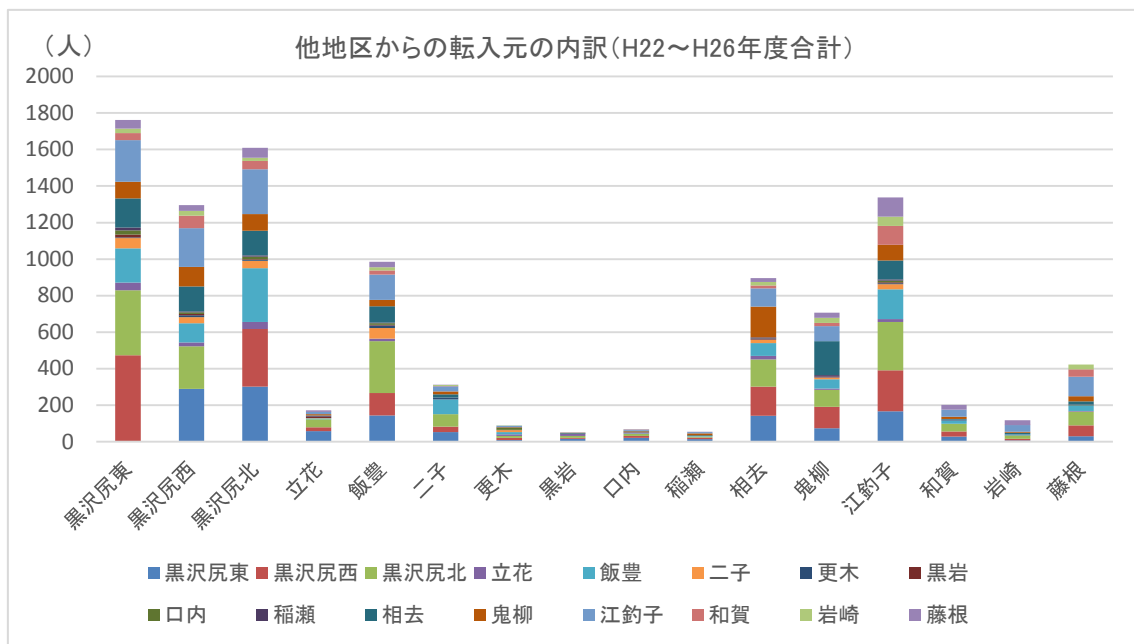


出典：住民基本台帳データ（地域間移動データ、9月28日提供）

※転出数は各年度（4～3月計）の数値を使用

②他地区からの転入元の内訳

他地区からの転入元の内訳は以下のとおりです。転入超過の大きい黒沢尻東地区は、黒沢尻西（27%）・黒沢尻北（20%）地区からの移動の割合が高くなっています。



出典：住民基本台帳データ（地域間移動データ、9月28日提供）

※転入数は各年度（4～3月計）の数値を使用

3. 地区別の将来人口予測

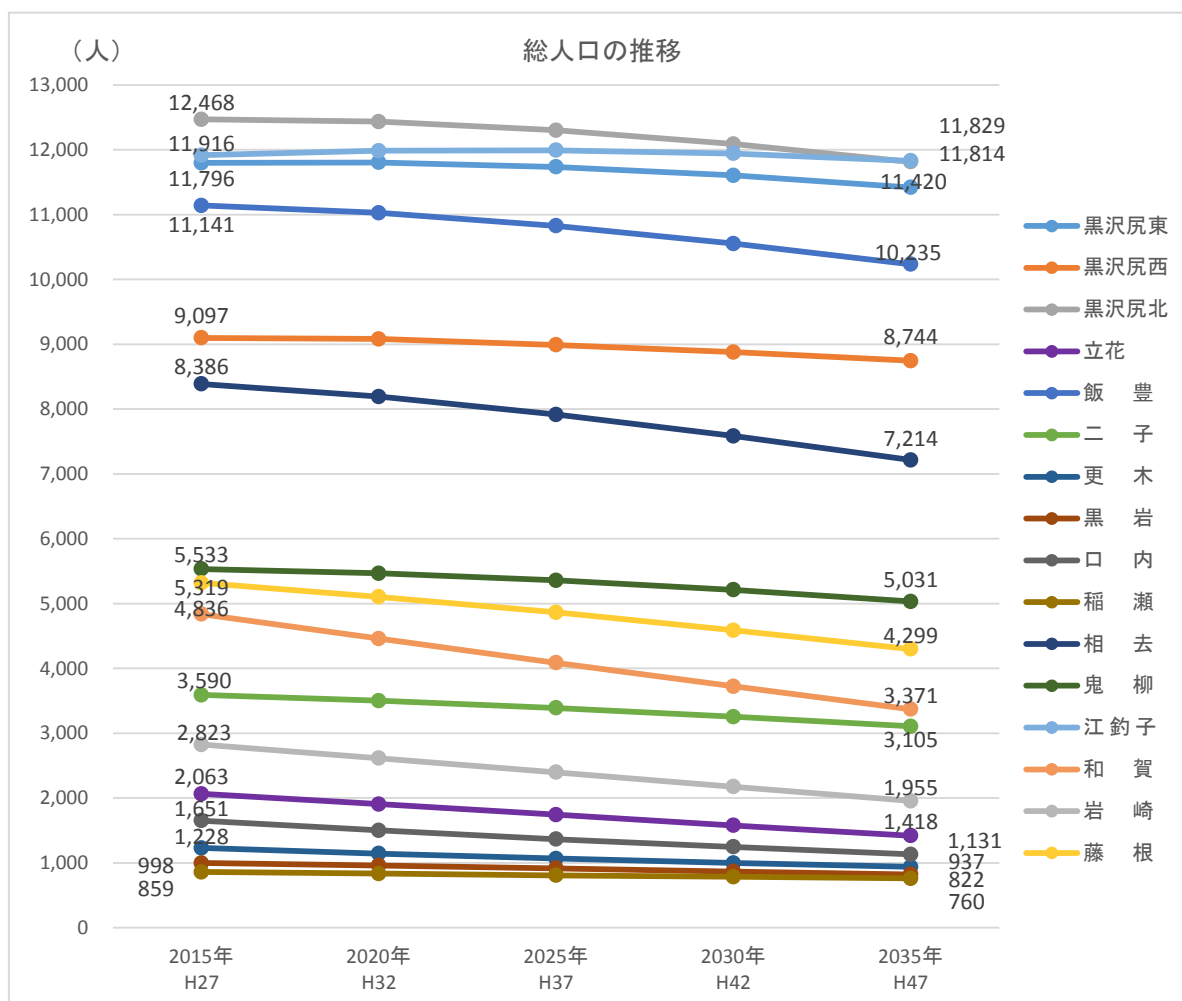
今後20年間(平成27年～47年)の地区別の将来人口の予測結果は以下のとおりです。
本予測結果は、近年の社会増減が今後も同水準で推移した場合のものであり、社会増減の変化が著しい地区の場合、将来人口予測結果への影響が大きくなるため留意が必要です。

【推計条件】

- ・出生率：平成25年度の北上市の出生率1.64が平成47年まで同じ率で推移すると仮定した。
- ・純移動率：平成20～26年度の地区別の社会増減の傾向を踏まえて、地区別の男女別年齢5歳階級別の移動率を設定し、平成47年まで同じ率で推移すると仮定した。
- ・基準人口：住民基本台帳の平成27年9月末時点の地区別人口を基準とした。

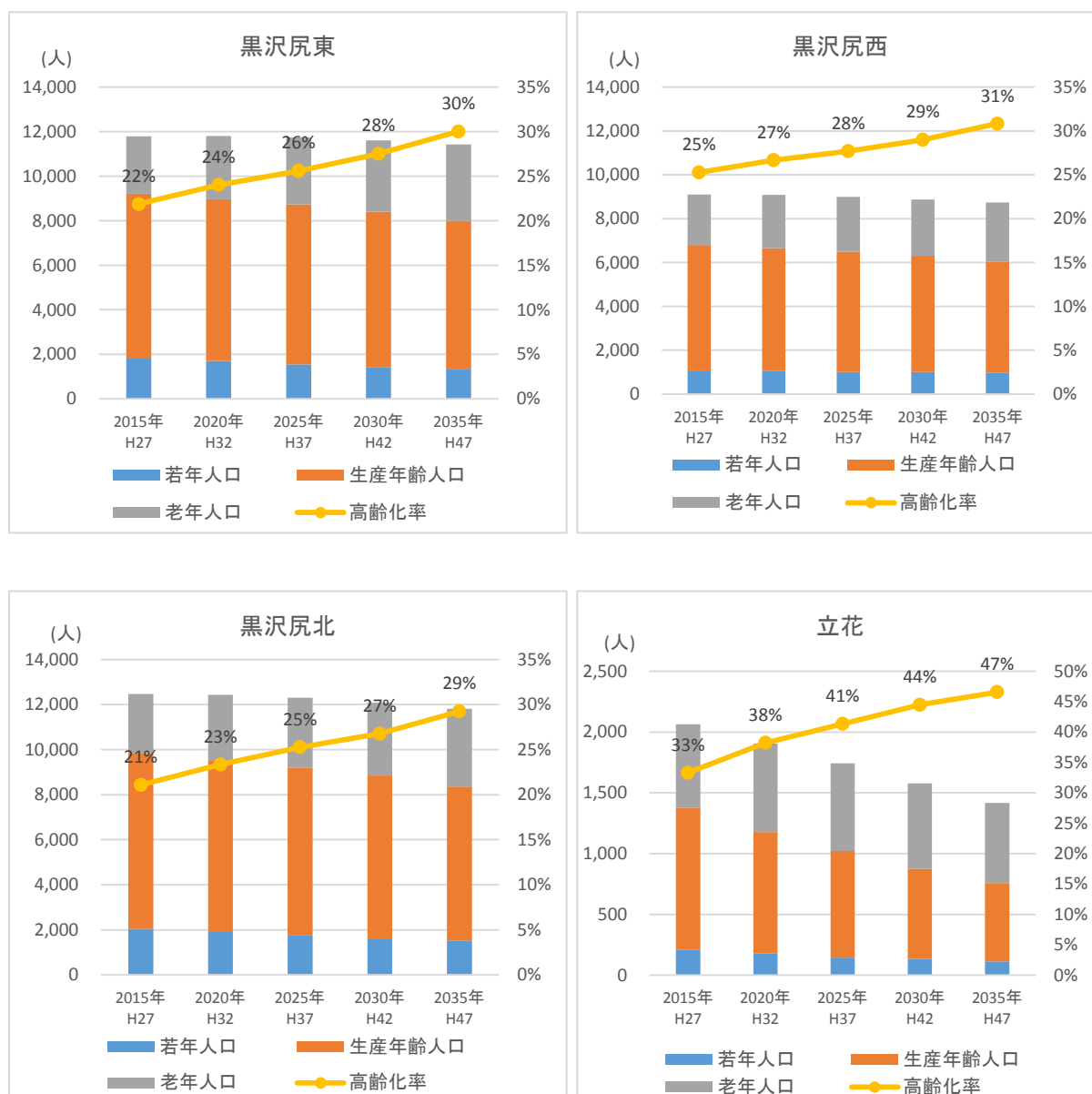
(1) 総人口

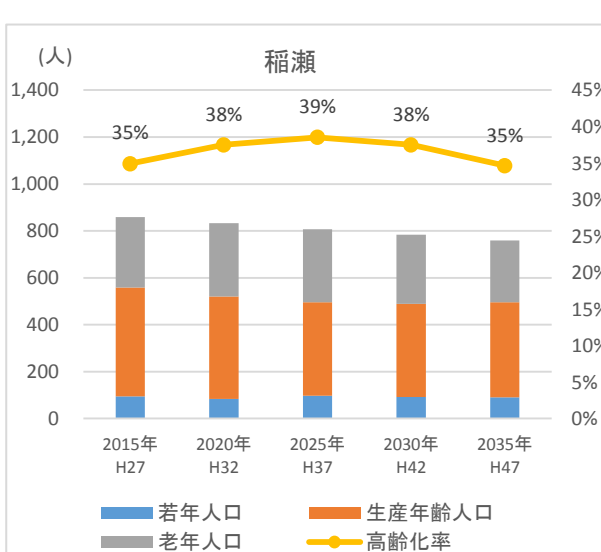
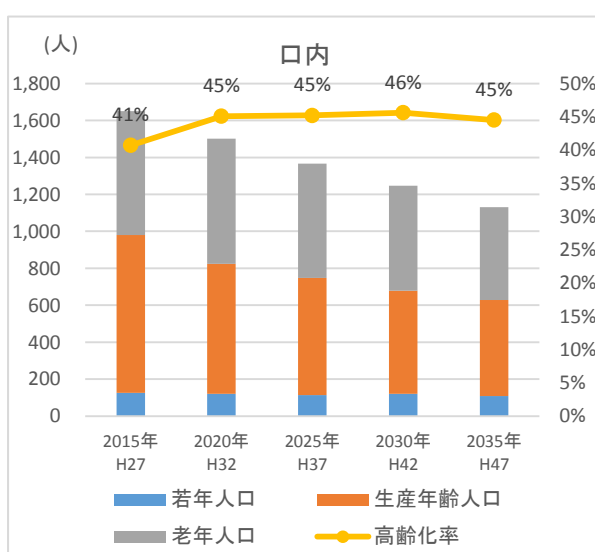
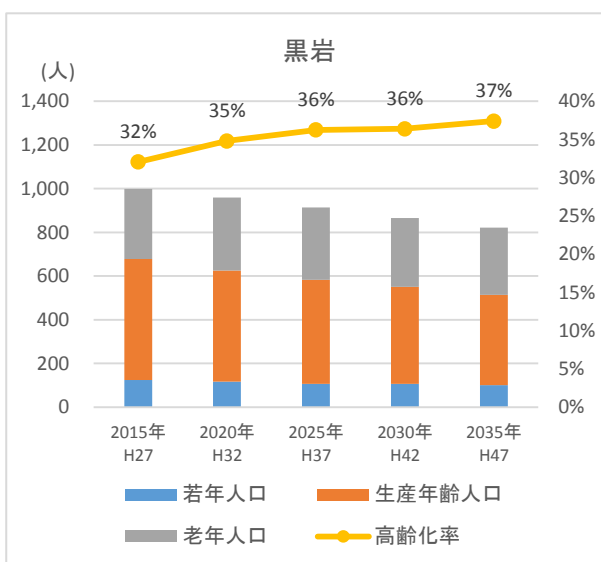
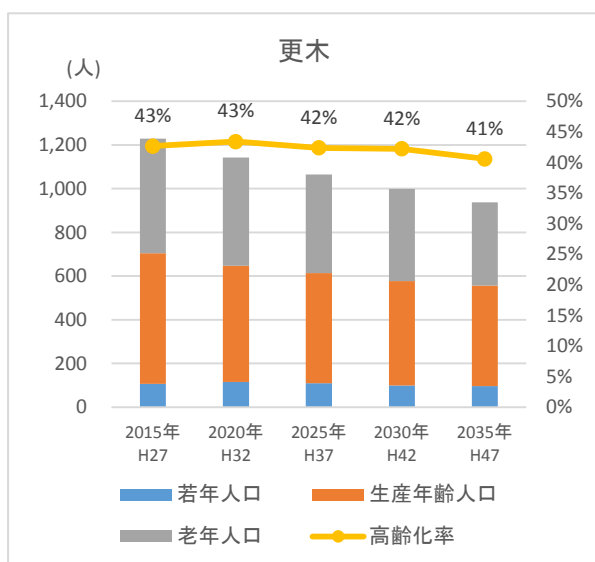
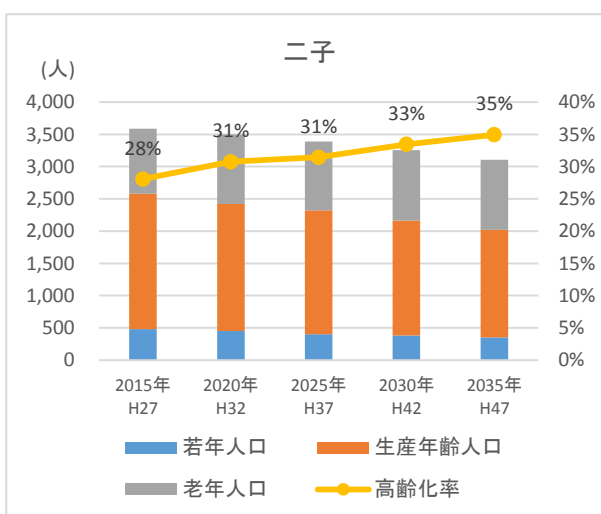
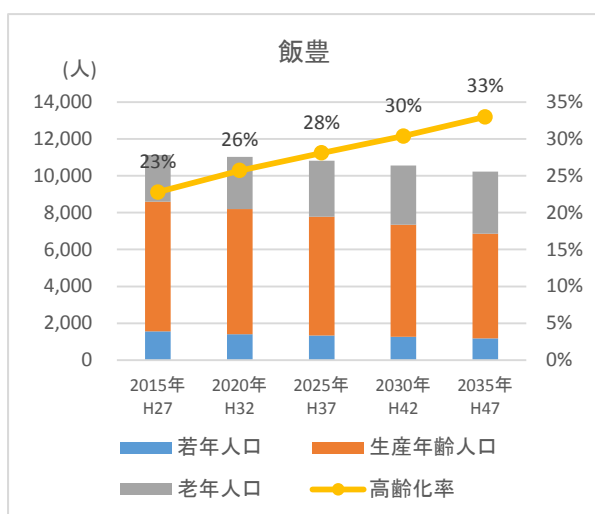
全ての地区において人口減少が進行する見込みです。

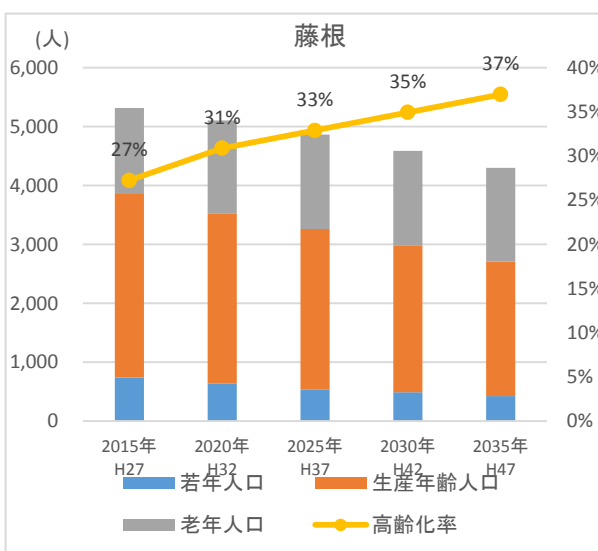
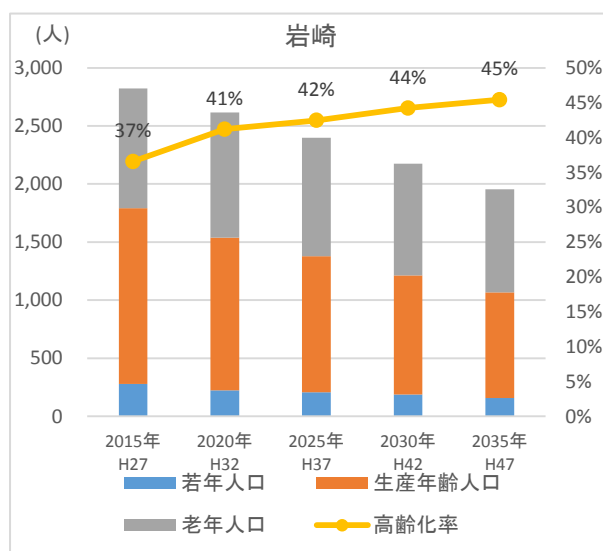
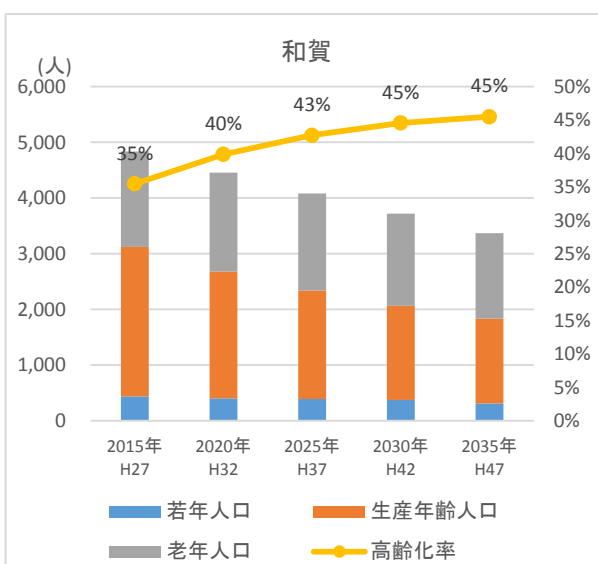
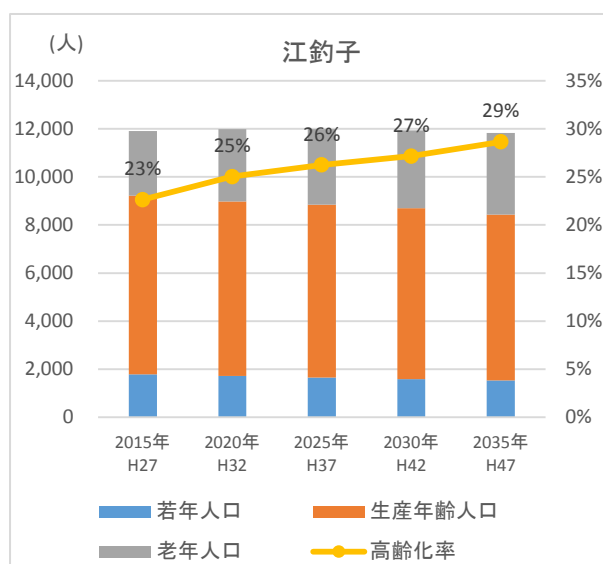
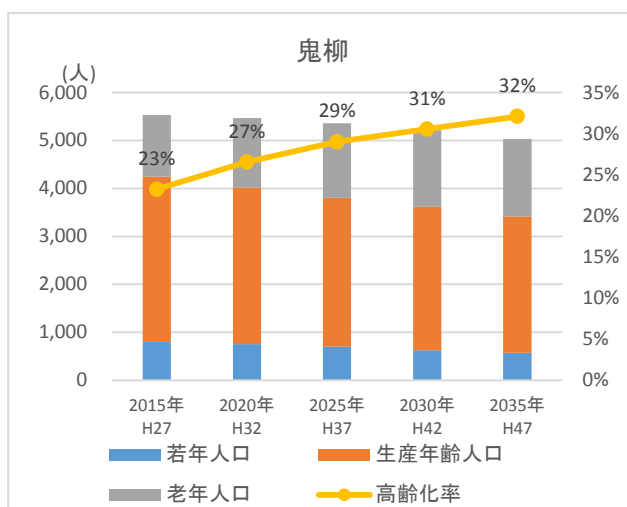
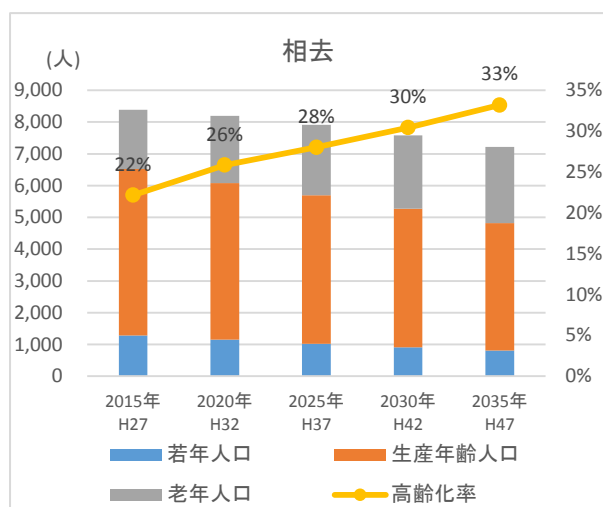


(2) 年齢3区分別人口の推移

地区別の年齢3区分別人口予測は以下のとおりです。全ての地区において人口減少や少子高齢化が進行しますが、更木・口内・稲瀬地区の高齢化率は徐々に横ばいまたは減少に転じています。

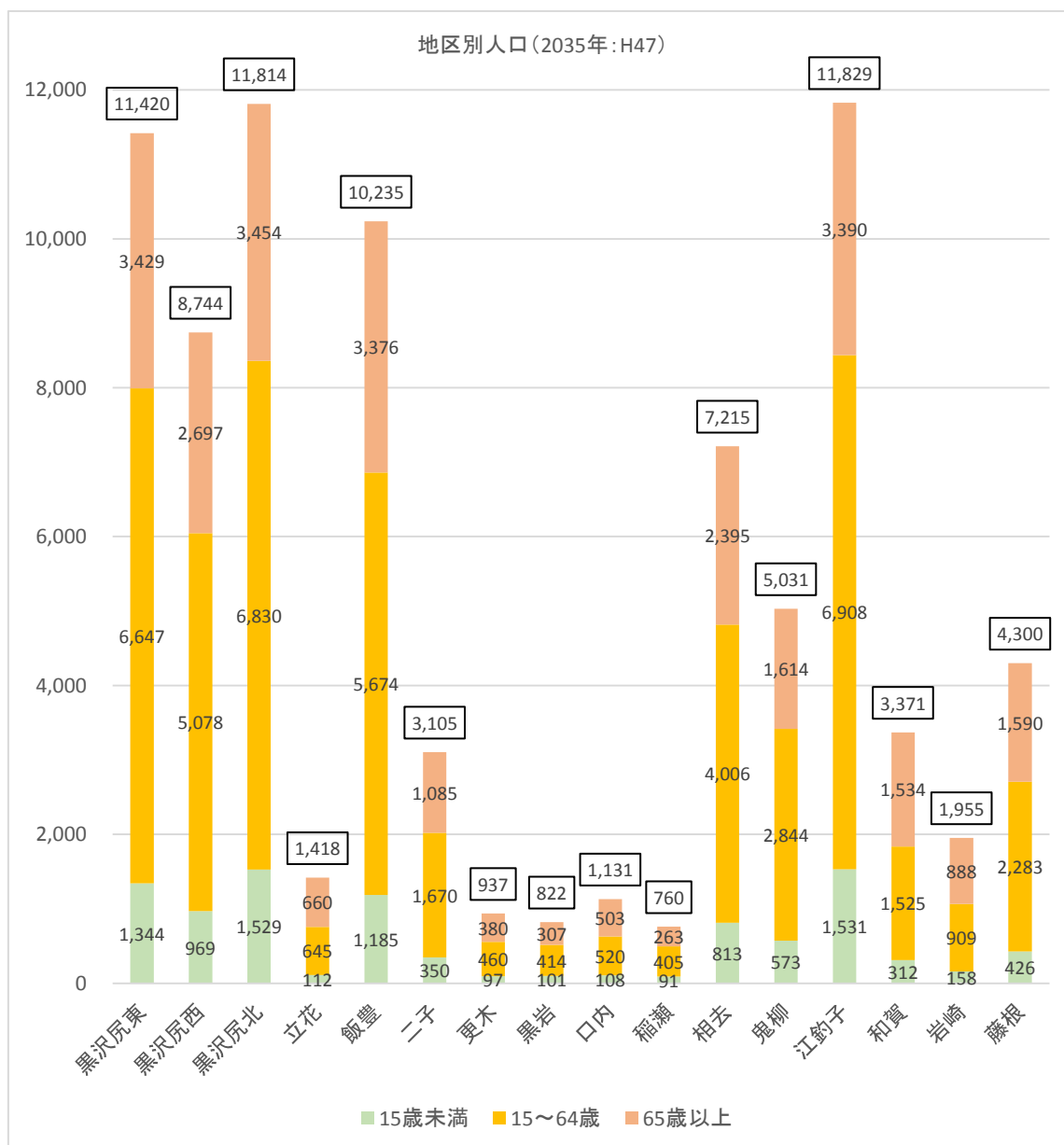






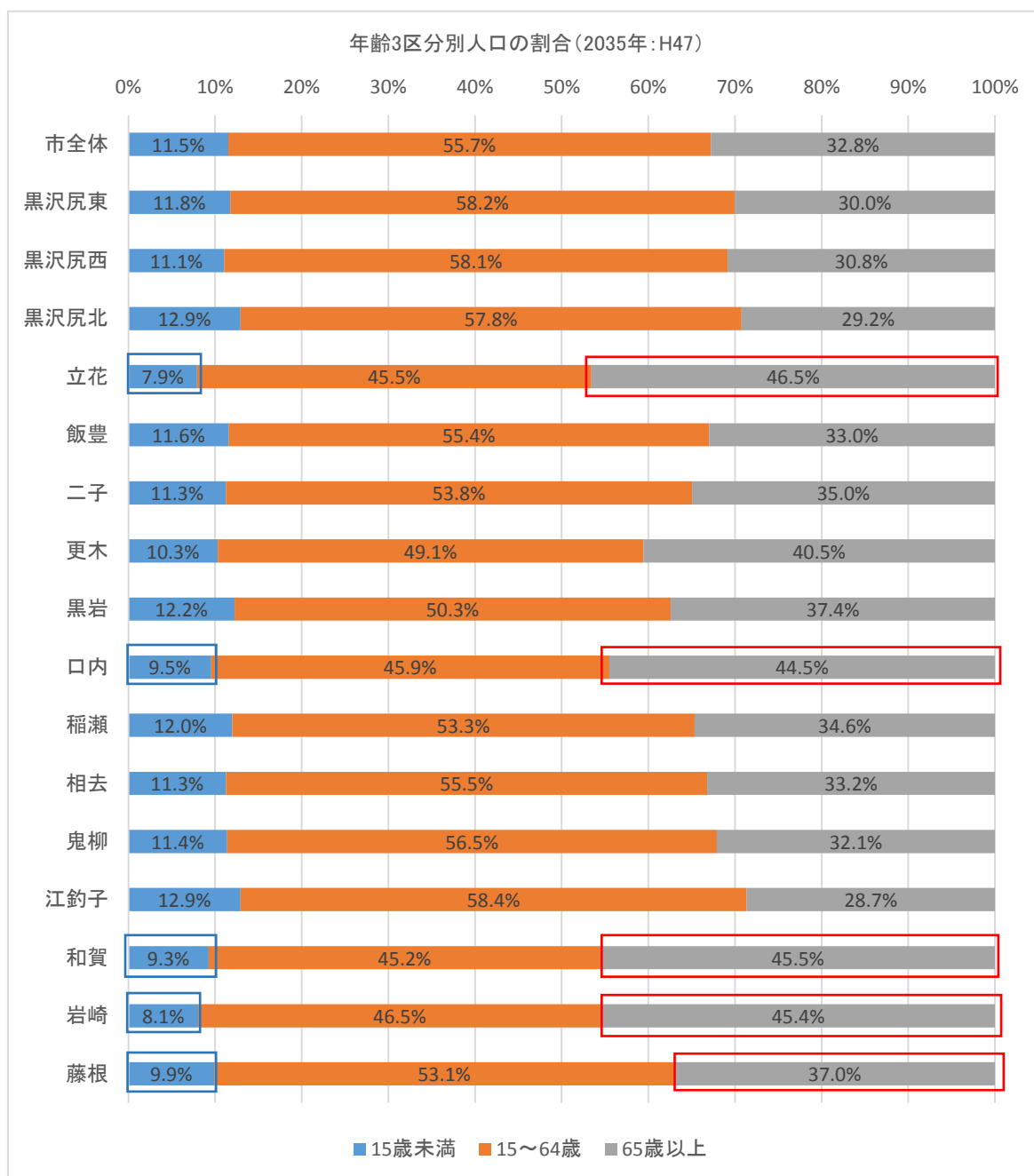
(3) 年齢3区分別人口の比較

20年後（平成47年）の地区別の年齢3区分別人口予測は以下のとおりです。平成27年と比べると、全ての地区の若年人口（15歳未満）と生産年齢人口（15～64歳）が減少しています。老年人口（65歳以上）については、立花・更木・黒岩・稲瀬・和賀・岩崎地区で減少しますが、その他の地区では増加しています。



(4) 年齢3区分別人口割合の比較

20年後（平成47年）の地区別の年齢3区分別人口割合予測は以下のとおりです。立花、口内、和賀、岩崎、藤根地区では若年人口（15歳未満）が10%以下、老年人口（65歳以上）が35%以上（3人に1人以上）となっています。



4. 地区別の人口における特徴

地区別の人口の現状分析及び将来予測を踏まえた各地区の特徴は以下のとおりです。

<現状>

- 黒沢尻東、黒沢尻北、飯豊、相去、鬼柳、江釣子地区の街なかとその周辺部に位置する地区は人口が増加傾向にあるが、東部や西部の農村部は人口が減少傾向で推移している。
- 黒沢尻北、黒沢尻東、飯豊、江釣子地区では人口が1万人を超えている一方で、更木、黒岩、稲瀬地区では人口が1千人前後と少なく、地区によって大きく異なる。
- 更木、口内、和賀、岩崎地区の15歳未満の若年人口が10%以下、65歳以上の老年人口が35%以上（3人に1人以上）となっており、少子高齢化が進行している。
- 過去5年間の自然動態は、黒沢尻東、黒沢尻北、相去、鬼柳、江釣子地区では出生数が死亡数を上回っている。しかし、その他の地区では死亡数が上回っており、更木、口内、和賀、岩崎地区では過去5年間の自然減が100人を超えている。
- 過去5年間における市町村間の人口移動は、黒沢尻3地区及び江釣子地区において転入超過が100人以上と多いのに対し、立花、和賀、岩崎、藤根地区では転出超過が多くなっている。
- 過去5年間の地区間の人口移動は、黒沢尻3地区及び飯豊、江釣子地区の人口の多い地区で1,000人以上転出している。黒沢尻東地区において400人以上と大幅な転入超過に対し、黒沢尻西、和賀、岩崎地区では転出超過が多くなっている。転出先としては、黒沢尻3地区及び飯豊、江釣子、相去、鬼柳地区など街なかとその周辺部に位置する地区が多くなっている。

<将来人口予測>

- 地区別の将来人口予測では、人口が増加傾向にある地区を含む全ての地区において、平成47年までに軒並み人口が減少する見込みである。
- 年齢3区分別人口予測では、平成47年までに全ての地区において15歳未満の若年人口及び15～65歳の生産年齢人口が減少する見込みである。65歳以上の老年人口は、多くの地区で増加する見込みであるが、立花、更木、黒岩、稲瀬、和賀、岩崎地区では減少する見込みである。
- 年齢3区分別人口割合の予測では、立花、口内、和賀、岩崎、藤根地区では若年人口（15歳未満）が10%以下、老年人口（65歳以上）が35%以上（3人に1人以上）となっている。